

体験重視の英語教育で育つ 多様性社会を生きる力

——東京成徳大学中学・高等学校のグローバル教育

留学体験は生徒の英語力を伸ばすだけでなく、自立心と積極性を育み、学力向上にもつながっていきます。15年間、留学を軸にした英語教育を実施し、生徒の成長を実感する、東京成徳大学中学・高等学校国際交流部長・英語科の茂原輝光先生にお話を聞きました。



東京成徳大学中学・高等学校
国際交流部長・英語科
茂原輝光先生

「自立心」と「英語力」 チーム留学で養われる

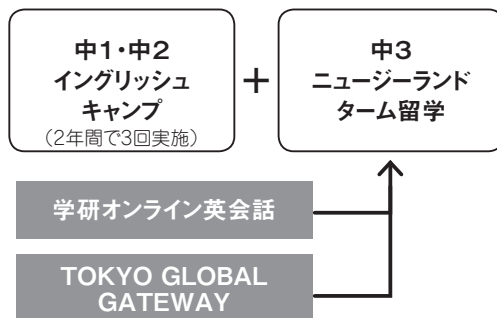
東京成徳大学中学・高等学校は、「21世紀のグローバル社会に活躍できる人物の育成」を目標に掲げています。英語科・茂原先生はグローバル教育の目的についてこう語ります。

「これからは社会のボーダレス化が進みます。日本人が日本の中のみで仕事をする環境ではなく、多様な社会に適応し、受け入れることができる人材になってほしいと思っています。グローバル教育の中核となるのが、中学3年3学期に実施するニュージーランドへのチーム留学です。同校は15年前からチーム留学を希望制で実施していて、近年では3年生の半数以上が留学を希望するようになり

ました。さらに、留学が帰国後の高校生活により影響を与えていることから、2019年度より留学は全員必修になります。「留学では、勉強として何かを身につけることよりも、この体験が生徒の心の成長にどんな影響を与えるのかを重視しています。日本と異なる文化の国で生活する上、面倒を見てくれる親がいないので、自分で問題に対処しなければなりません。これまで留学から帰国した生徒には、高校3年間の生活態度や進路の考え方などに明らかな変化が見られました」(茂原先生)

英語力の向上も目標の一つですが、留学では学校の授業とは違う英語力が養われると茂原先生は言います。

「ニュージーランドでは、自分の考えは言葉で表現しなければ相手に伝わりません。生徒たちは苦労して英語を使ううちに、英語を聞き取り、現地の発音に近い英語で自分の意見を発信する力を身につけていきます。ただし、これは模擬試験の得点を



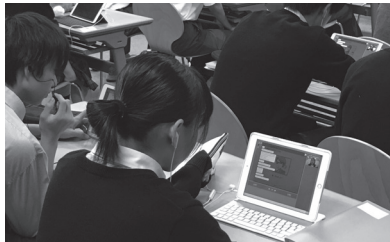
▲ 2017年度入学生より実施している英語教育

上げるような英語力とは別のものです。生徒には、コミュニケーションを取るための手段として英語を使いこなせるようになってほしい」

発話量を増やす授業に 学研オンライン英会話を活用

スピーキング力が高いほど、生徒が留学で得られる成果は大きくなります。同校では、チーム留学が全員必修となる2017年度の入学生から週8時間の英語授業を実施し、留学の下地を築いていきます。また、

▼学研オンライン英会話を活用した授業



けること
ができる。
多くのオ
ンライン
講座は講
師が画面
全体に映
るので
が、それ
だと生徒
は緊張す

早期段階から英語に触れること
で、英語アレルギーを取り除く
ことができます。
さらに生徒の発話量を増やす
ことを重視し、学研オンライン
英会話を導入しました。同校で
は生徒各自がiPadを持ち、
授業に活用していたことも、オ
ンライン英会話を導入した要因
のひとつです。なお、同校はアッ
プル社よりiPadを活用した
教育環境を実現しているADS
(Apple Distinguished School)
に認定されています。
「教師1人では全員を相手に会
話をする時間に限界があります
が、オンライン英会話はマン
ツーマンで英語を25分間話し続
けること
ができる。

るんです。学研のシステムは学
んでいる教材を大きく、講師の
顔は画面右上に小さく表示する
ので、生徒は常に画面と向き合
えます。また、展開の先が読め
ない生徒の会話には緊張感も
ある。受講中の生徒はとても楽
しそうで、見たことのない笑顔
で話す生徒もいました」(茂原
先生)
また、昨年9月に開業した体
験型英語学習施設TOKYO
GLOBAL GATEWAY
(TGG)に注目し、いち早く
活用もしています。
「プログラムが多彩で、参加者
の意欲を引き出すようによく作
りこまれていますね。驚いたの
は、1グループの生徒8人に対
し、エージェント(イングリッ
シユスピーカー)が1人専属で
つくこと。本校が実施している
イングリッシュキャンプでは、
講師1人につき10人です。生徒
に発話を促すエージェントの
ファシリテーション能力も見事
です。また、都内にあるのでイ
ングリッシュキャンプと同等の
体験を日帰りできるといふ点

も魅力です。イングリッシュ
キャンプは英語を使う「きつか
け」、発話を続けるためのオン
ライン英会話、そして、TGG
は普段の授業の成果を実践し確
認する「ゴール」として利用す
るのが効果的かもしれません」
(茂原先生)
オンライン英会話とTGGは
留学の事前準備だけでなく、帰
国後、留学で身につけた英語力
を維持しさらに伸ばすための機
会として効果的なので、今後は
もっと早い学年から取り入れて
いく予定です。

**体験を今後につなげて
効果的な活用をめざす**

茂原先生に今後の活用法を聞
きました。

「生徒の体験を楽しいだけで
終わらせずに、今後の学習に
つなげていきたい。また、多く
の生徒は『まだ英語を使いこな
すという段階には達していな
い』とも実感しているので、今
後はもっと達成感を得られるよ
うに事前準備を整えます。いま
は、用意されたコンテンツに

乗っかっているという段階なの
で、教材の一部として使うなど、
オンライン英会話と授業とを結
びつけられるような仕組みを考
えています。今までの授業とは
違う「英語力」がついたと、生
徒が実感できるようにしなければ
いけない。まだ中学3年生
と高校1年生でしか利用してい
ませんが、できることなら入学
直後からオンライン英会話を継
続的に利用したいですね。英語
に親しんでいる生徒がどんな反
応を見せるのが楽しみです」



▲英語コミュニケーションを体験できるTGG

【問い合わせ先】(株)学研プラス 英語教育事業室 03(6431)1573 global-english@gakken.co.jp